

2025 年 2 月 4 日、「省エネ診断」を実施しました

本日は、「脱炭素社会に向けたモデル企業育成事業」の大きな節目となる「省エネ診断」を実施しました。

省エネ診断では、工場及び倉庫内を3時間程度掛けてウォークスルーで調査し、照明や空調などを細かく確認していきます。
主な確認項目は以下のとおりです(以前に掲示した「事前調査項目」に追加項目があります)。

省エネ診断における主な確認項目
① 空調機／台数、メーカー、年式、型番、設定温度、稼働時間、フィルター清掃具合、室外機の設置状況など
② 照明器具／蛍光灯の本数、照度(一部で照度計を使用)、不必要な点灯の有無など 天井までの高さも測定(「室内高に合わせ、照明及び空調の強さを調整するのが理想」とのこと)
③ ガラス窓の遮熱／工場内ガラス窓に貼り付けられた遮光フィルムの素材を確認
④ 換気扇／各棟換気扇の稼働状況を確認
⑤ コンプレッサー／メーカー、年式、設置状態、稼働状況、エア漏れ検査実施の有無、エア使用設備の利用状況など
⑥ その他(熱を発する設備、高圧受変電設備など)／メーカー、年式、使用状況、必要以上に熱を発していないかなど

下は省エネ診断時の様子です。



コンプレッサーを確認



各棟の空調機を確認



熱を発する設備を確認



各棟の照明を確認



工場内の高さを確認



スタンド照明の明るさを確認



照度計を用いて測定



空調機フィルターを確認



空調機室外機を確認

打ち合わせでは、リコージャパン(株)から以下のような助言・提案がありました。

- ・ 省エネ活動はマンネリ化しがちである。しかし技術の進歩に伴い適宜できることが増えてくるものである。
- ・ また省エネ活動は100%目標通りにできなくて良い。できなかった事柄については、翌年に改善策を検討・実行していくことで、継続的な省エネ活動につながる。
- ・ 天井の高さに合わせた照明・空調管理を提案したい。

一方当社からは、「井戸水を省エネ活動に利用することはできるのか？（当社工場ではトイレを流す際に井戸水が活用されています）」などの質問があり、脱炭素化に対する積極的な姿勢が伺えました。

※後日、地下水を冷媒として利用する、省エネタイプの冷房装置が紹介されました。

また当社工場内には『環境掲示板』と題し、参考にすべき他社の取組や環境問題を扱ったTV番組情報などに関する印刷物が掲示されていました。リコージャパン(株)からは「素晴らしい取り組みですね」との発言がありました。



最後に本日のやり取りを「今日の助言」としてまとめます。

今日の助言
～ 継続的な省エネ活動について ～ 省エネ活動はマンネリ化しがちですが、技術の進歩に伴い適宜できることが増えてきます。 また省エネ活動は100%目標通りにできなくて良い。できなかった事柄については、翌年に改善策を検討・実行していくことで、継続的な省エネ活動につながります。
～ 照明・空調の強さは天井の高さに合わせて ～ 天井の高さに合った照明・空調を導入（簡単に距離が測れる“レーザー距離計”というものが比較的安価で購入でき、活用が可能）しましょう。また蛍光灯からLEDに交換する際は、（LEDは蛍光灯より照度が高いため）照明の数を減らすことも検討しましょう。